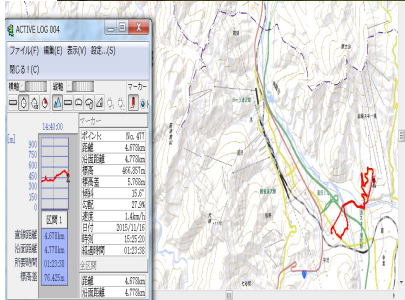


岩原温泉



2015年11月16日

ツアーで岩原温泉に行きました。ゲレンデの中腹にあるシエラリゾート湯沢に泊まりましたが、遊歩道が無いので、ゲレンデを下り駅の方向に向かって歩きましたが、帰りは舗装された登りで難渋しました。

岩原温泉スキー場：最大幅600mのワイドな緩斜面で知られるスノボ／スキー場。1931年創業の老舗スキー場で、湯沢エリアの中でも歴史のあるゲレンデです。関越道からよく見える三角形の一枚バーンが目を引きます。緩斜面の広さから初心者の練習には好適で、中学や高校のスキー合宿などでもよく使われます。運営は永らく岩原観光株式会社でしたが、2009年に民事再生法の適用を申請し、事実上倒産。その後、同社は株式会社ライフスタイルサービスと名称を改め再生を完了しています。再生の過程で上越国際スキー場(上国)の運営会社の支援を受けたようで、現在は、上国とのコラボ企画が行われ、両ゲレンデを結ぶシャトルバスも運行されています。経営不振の余波を受け、かつて存在していたゴンドラは2008年シーズンより休止され、事実上廃止されています。かつては空いていた好評だった平行コースなども営業を休止しており、扇形の一枚バーンのみのゲレンデとなりました。

岩原は湯沢の市街地に隣接した立地は抜群。関越道湯沢インターから3km、JR越後湯沢駅から5kmほど。新幹線を降りてからシャトルバスに10分ほど乗れば着くことができます。

1980年代、スキーブームに沸く湯沢町には多くの人々が訪れ、リゾートマンションも次々と作られました。1990年から1992年にかけて大型のリゾートマンションが約20～30棟ほどもたてられ、平地だけでは間に合わず、山の中部から上中部にまで建てられた景観は関越道からも色とりどりに色付けされて望むことができます。バブルの頃までは多くのスキー客が購入し手軽にスキーを楽しみました。しかし、バブルが弾けブームが去ると、マン

ションを利用する人は激減しました。2000年代に入るとマンションを訪れるオーナースキーヤーはさらに減り始め、手放す人も増えきたせいか閑散となりました。最近ではスキーヤーを当て込んだ大型のホテルも閉鎖されているのが目立っています。インターネットの広告を見ても1LDK40~60㎡で50~200万円で管理費が2~2.2万円程度の物件が多く見られます。バブルの当時の約1/10と言ったところでしょうか。頻繁にスキーに通うのでリゾートマンションを買うにしても駅付近ならともかく、山の中腹ではタクシーで行かざるを得ないし、かと言って都心から車でゆくのなら湯沢に行くのでは意味がない、投資の対象になるかといえば、これまた難しいので、多くの部屋が空いているようです。